

大学教育センター—2018 年度活動報告

山口大学大学教育センターの2018年度の活動について概要を報告する。本年度の運営の特徴としては大学教育センターに新たにデータサイエンス教育推進室を設置したことから、部及び室の役割分担を明確にしたことが挙げられる。

1 大学教育センターの目的

大学教育センター（以下「センター」という。）の目的は、「山口大学における共通教育、専門教育を体系的に捉えた教育システムの実施、授業評価等の全学システムの実施並びに教育活動評価及び授業改善の企画等をより具体的、実践的に行うために大学教育の企画・実施を行い、もって本学の教育活動の充実発展に寄与すること」（「山口大学大学教育センター規則」第2条）である。企画・評価を行うのみではなく、実施組織の面も持ち、全学的な教学マネジメントの中核組織としての活動が期待されている。

2 組織と運営体制

2019年2月現在、センターは7名の専任教員（教授1、准教授3、講師1、助教3）と併任教員2名（センター長、データサイエンス教育推進室長、何れも大学院創成科学研究科兼任）及び3名の主事（人文学部教授、教育学部教授、理学部准教授）の計12名のスタッフからなる。

センターには教育開発部、教学インスティテューショナル・リサーチ部（以下「IR部」）及びデータサイエンス教育推進室（以下「DS室」）が置かれており、上記の専任教員と主事がそれぞれ部または室に分かれて

担当している。教育開発部には専任教員2名と主事2名が、またIR部には専任教員3名と主事1名が所属し、それぞれ個別にミーティングを開催している。ミーティングの際は、センター長と、実務的な観点から教育支援課副課長も同席し教職協働体制を敷いている。一方、DS室には室長、副室長が置かれ、センター教員が副室長を担当し、職員1名が配置されている。また、本学の学教育再生加速プログラムの推進を担うYU-AP推進室があり、センター教員2名と職員1名が中心となり取り組んでいる。これら各部、各室のそれぞれの取り組みについては稿を改めて各部各室の担当教員から報告されるので、それらを参照願いたい。

また、センター教員全員（助教を除く専任・併任教員及び主事）および教育支援課職員1名をメンバーとするセンターミーティングを毎月開催している。センターの大きな方針等はこのミーティングで最終的に決定される。前年度まではすべての議案をこのセンターミーティングで議論していたが、2018年度からは各部、各室で議論した上でセンターミーティングに報告することにした。そのため、センターミーティングは前年度までは毎週のように開催されていたが、月に1回ないし2回程程度の開催となっている。

3 取り組み

先にも述べたが、詳しい取り組みについては各部、各室の報告に譲ることにし、ここでは2018年度のセンターの主な取り組みについて概略を報告する。

3.1 FD・SD

3.1.1 教育改善FD研修会

各学部・研究科のすべて教員を対象とする教育改善FD研修会を開催した。本年度は「教学IR」をテーマに、アドミッションセンターの協力のもと「入試制度と成績の関係」を一つの事例として取り上げ、各学部・研究科の教員と教学IRの推進方法や課題について意見交換を行った。開催日と学部・研究科は表1の通りである。

表1 平成30年度 教育改善FD研修会

月	日	学部・研究科
9月	3日	理学部・創成科学研究科
	19日	人文学部・人文科学研究科
10月	10日	共同獣医学部・共同獣医学研究科、 連合獣医学研究科
	17日	教育学部・教育学研究科
11月	7日	医学部（保健学科）・医学系研究科
	14日	工学部・創成科学研究科
	21日	経済学部・経済学研究科
12月	11日	技術経営研究科
	12日	医学部（医学科）・医学系研究科
	19日	農学部・創成科学研究科
1月	16日	国際総合科学部

3.1.2 アラカルトFD研修会

学部・研究科が主催するFD活動に、センターや学内から講師を派遣して行う研修会で、いくつかのテーマから各学部・研究科が希望のテーマを選んで行われた。

3.1.3 全学FD・SD講演会

「大学教育とアクセシビリティー多様な人々の大学教育へのアクセシビリティを考

る」をメインテーマに、8月8日に開催した。

3.1.4 新任教員研修会

人事課が年2回開催している新任教員研修会であるが、2018年度第2回目は「新任教員のための大学教員準備講座」として大学教育センターが中心となり9月27日に開催した。実施後、来年度に向けてセンター内でFDを行った。

3.1.5 ラーニング・アドバイザー養成講座

前年度に引き続き「学生の学びの好循環」に資することのできるラーニング・アドバイザー養成講座を、対象を山口大学から大学リーグやまぐち加盟機関の事務系職員に広げて1月25日、2月15日に開催した。

3.1.6 その他

上記の他、SA/TA研修会、FDコーディネータ研修会、FD・SDワークショップ等々のFD・SD活動を行った。

3.2 教育開発部、IR部、DS室、YU-AP推進室

教育開発部では前節で述べたFD活動や研修会の企画・検討、中期目標・中期計画の年度報告、年度計画の検討、照合事項の作成や回答案の作成等を行った。また2019年度に本学で開催予定の「中国・四国地区大学教育研究会」のプログラムの検討や基調講演者候補者の選出を行った。

教学IR部ではアドミッションセンターの林寛子准教授の協力を得て、上に述べた教育改善FD研修会の検討・準備を行った。また英語教育に関連した分析も行う予定である。

DS室では今年度から共通教育科目に設置された「データ科学と社会Ⅰ」及び「データ科学と社会Ⅱ」を円滑に実施するため、外部講師の手配、授業のビデオ撮影、講師へのフィードバック、教材化の検討等の活動を行っ

た。

YU-AP 推進室では前述の「ラーニング・アドバイザー養成講座」や「共育ワークショップ」, 「FD・SD ワークショップ」等の FD・SD 活動, 学習到達度調査や学習行動調査, 「Teaching & Learning Catalog」や「アニュアルレポート」等の広報物の発刊や報告書を作成した。

3.3 研究会・情報収集

6月2日・3日に第66回中国・四国地区大学教育研究会が鳥取大学で開催され, 次年度本学開催に向け, 大学教育機構長, センター長, 専任教員1名, 事務職員1名が参加し情報収集を行うとともに, 林准教授が分科会で発表を行った。

6月6日・7日に, 第54回12大学教養教育実施組織代表者会議・事務協議会にセンター長が, 6月7日・8日に平成30年度国立大学教養教育実施組織会議及び事務協議会(於高崎)にセンター長及び専任教員1名が参加した。

9月10日・11日平成30年度全国大学教育研究センター等協議会(於広島大学)に専任教員が参加した。

この他にも各教員が個別に所属学会等に参加して情報収集を行っている。

3.4 センター長

大学教育センター長の活動について, 上述のものと重複するものもあるが再度掲載する。すべてを正確に記録しているわけではないため, 概略や概数にせざるを得なかった。なお, センター長は併任であり, 学部・研究科教員としての業務もあるが, ここではセンター教員としての業務のみをあげる。また, 個別にあげてはいないが, 通常の組織同様, 報告・連絡・相談, 企画立案, 様々な打ち合わせ, 決裁などもある。

3.4.1 例年同様の活動

【毎週1回程度】

- ・機構連絡会
- ・センターミーティング(IR 部, 教育開発部を含む)

【毎月1回程度】

- ・大学教育機構運営委員会
- ・教学審議会
- ・教学委員会

【年数回～10回程度】

- ・YU-AP 関連会議
- ・障害学生修学支援委員会・連絡会
- ・COC+推進委員会, YFL 委員会等
- ・VELCテスト・TOEIC IP テスト
- ・各学部との意見交換, 学長・理事との意見交換

- ・出張

【年2回】

- ・知的財産教育研究共同利用拠点運営委員会
- ・新任教員研修会
- ・ラーニング・アドバイザー養成講座
- ・ノートパソコン選定部会

【その他】

- ・学生支援関係審査
- ・FD・SD・研修会出席, 説明, 挨拶等
- ・各種アンケート・照合事項への回答等
- ・中期計画・中期目標の年度計画・検討, 達成・進捗状況の記載
- ・トラブル対応, 訪問対応, 依頼・調整

3.4.2 2018年度に特徴的な活動

- ・教員採用選考・昇任委員会, 面接等
- ・YFL 育成プログラム関係
- ・YU CoB CuS 勉強会
- ・英語部会との打ち合わせ
- ・英語教育システムの改善を全学的に検討する検討会議
- ・来年度の「中国・四国地区大学教育研究会」の基調講演者や分科会のオーガナイザーの依頼

・共通教育（学部教養教育）の検証と改善の検討会議（予定）

4 その他

4.1 DP・CP

YU CoB CuS の全学展開に向け、8月23日に理系学部（理学部，医学部，工学部，農学部，共同獣医学部）の勉強会を開催した。また国際総合学部においてアンケートを実施している。ナンバリングについては全学部で附番が完了し、10月24日の教学委員会で報告し、履修の手引きに掲載を依頼した。またカリキュラムマップ，カリキュラムフローチャートも各学部で新しいDP，CPに合わせて更新が行われた。

4.2 英語教育

教育研究評議会の下に、学士課程教育における英語教育システムの改善を全学的に検討する検討会議が置かれ、2019年度からの英語教育の変更について議論された。今後高年次の英語教育についても議論される予定である。

また、センターには英語教育担当助教が2名おり、年間計60以上のクラスを担当している。英語教育の充実を図るため、新たに英語教育担当の助教を1名増員することが認められ、採用活動を行った。

4.3 YFL 育成プログラム

YFL 育成プログラムの実施母体が2020年度から（一部2019年度から）大学教育機構に移管されることになり、新しいYFLカリキュラムや実施体制について検討を行った。

4.4 レポート等

センターニュースレター「共育の丘だよ

り」を2回発刊した。FD報告書，共通教育授業科目別部会活動報告書，卒業・修了時満足度調査，試験の公正な実施に関するアンケート等の取りまとめ，報告を行った。

4.5 その他

センター教員はIYOCAN等のシステム保守・管理，共通教育の定期試験時の補助監督業務，プレースメントテストの補助等もしている。

5 課題

上述のように大学教育センターは山口大学の教学マネジメントの中核組織としてFDや研修会を企画・実施している。しかしながら中期計画・中期目標の達成や日々の業務に追われ、新しい企画や取り組みは多くない。もちろん新たな取り組みを行うことが必ずしもいいとは限らないが、常に全国や学内の動向や学生の様子に気を配り、学生の学びの向上に資するような企画を考え、提案することができる体制が求められる。

謝辞

センターの活動の企画・実施にあたっては学生支援部教育支援課の支援に負うところが大きい。また、各学部・研究科の教職員の方々のご理解，ご協力のもと活動を続けられており、この場をお借りして感謝申し上げます。

文責：大学教育センター長・大学院創成科学研究科 教授 菊政 勲